

今 子育てで大切にしたいこと

山 田 郭 子

1. はじめに

「三つ子の魂百までも」は昔から日本に伝わったことばで、標語のように聞きとり、また、人に伝えてきたことばである。

長年幼児教育に携わらせていただき、このことばの意味は十分熟知しているつもりであるが、今程このことばの重さを感じたことはない。青少年における昨今の状況から、乳幼児期の教育の在り方が問われている。就園率100%の時代、全ての人がいずれかの保育所（園）幼稚園を経過している。その時期の教育の中で何か忘れていたものがあるのではないかと、筆者の在職中の反省をしつつその思いの一担を述べたい。

幼稚園教員在職中は、ひたすら、日々の指導に専念していたように思われるが、幼児教育を側面からみる立場（行政機関）に身をおく機会を与えられたことにより、諸々の大切にしなければならないことを見失っていたことに気付いた。見直しの諸点を提案し、継承していくべき基本的なことと改善面を見出し、乳幼児期の教育のあるべき方向を探り、その実践者である後輩の育ちを支援し、より望ましい保育者になってくれることに期待した。更に公民館での3年間は高齢者の方々が若者に勝るとも劣らない意欲的な学習の姿より、幼児期に培われたその心が今生きて働く力（学力）となっていることを学んだ。また青少年センターでは、青少年期にある深刻な諸問題の発生源が乳幼児期の生活にあることも仕事の内容から学んだ。

「幼児期における教育は、その生涯にわたる人間形成の基礎を培う上で重要な意義をもっている」ことが冒頭の「三つ子の魂百までも」の裏付けであることが、筆者の通ってきた道の中で確認した。

本学において幼児教育学科を担当することになった、過去の経験を生かし、また、反省点を荒い出しより望ましい保育者養成の任を果たすため「真の子育てのあり方」を考察したい。

2 子育ての今、昔

近年急激な社会構造の変化が「教育観」「子育て観」に影響を及ぼし、子育てに対する不安感も増大している。乳幼児期の心身の成長発達は著しい。刻一刻と昼夜分かたず成長している。このことは、保育園、幼稚園という集団の中での生活と共に家庭生活の中においても成長発達をし続けているということである。いわゆる子どもの育成にあたる者は24時間を視野に入れた保育の必要性があるといえる。

従って保育者は、乳幼児の24時間をふまえた指導者としての資質を備えることが要求される。子育て

に対する課題が増大する中、子育てのあり方の今昔を対比しながら今日的課題を見出したい。

イ 昔の母親に見る子育て

近代のような文明機器はない時代の家事労働、農作業の中で、決して少なくない子どもを抱えての子育てである。まして子育ては母親の仕事としての観念が通用していた。また母親も子育てに対する自負心も強かった。母親の喜びは“哇にて我が子が大声で泣いて母親を呼ぶ時”であった。子どもが与えてくれる唯一の休憩時であり、じっくりと関われる、母子にとっての至福の時間であったといえる。また、家事もたくさんの子どもを見ながらこなした、乳児を背負っての家事で母親の肉体労働も大きかった。しかし農良仕事を哇から、家事を背中から見ながら、母親のことばや歌を聞いたり、また台所ではおかずの匂いを吸ったりと、幼い頃から家族の一員として心も身体も成長していたと思われる。

ロ 今の母親に見る子育て

文明の進化に伴い、母親の家事労働は軽減され、生活にもゆとりが生じた。第2次世界大戦後、わが国の家族は大きく変容した、高度経済成長以降、核家族が一般化し家族の小規模化、家族形態の多様化が進んでいる。社会的な要因が家庭、家族の変容につながり、家族の機能の縮小、弱体化を生みだしている。その要因の一つに少子化がある。出生率の低下は1970年代なかば頃から低下し続け1989年の1.57ショック、2000年は1.36と大幅に低下している。

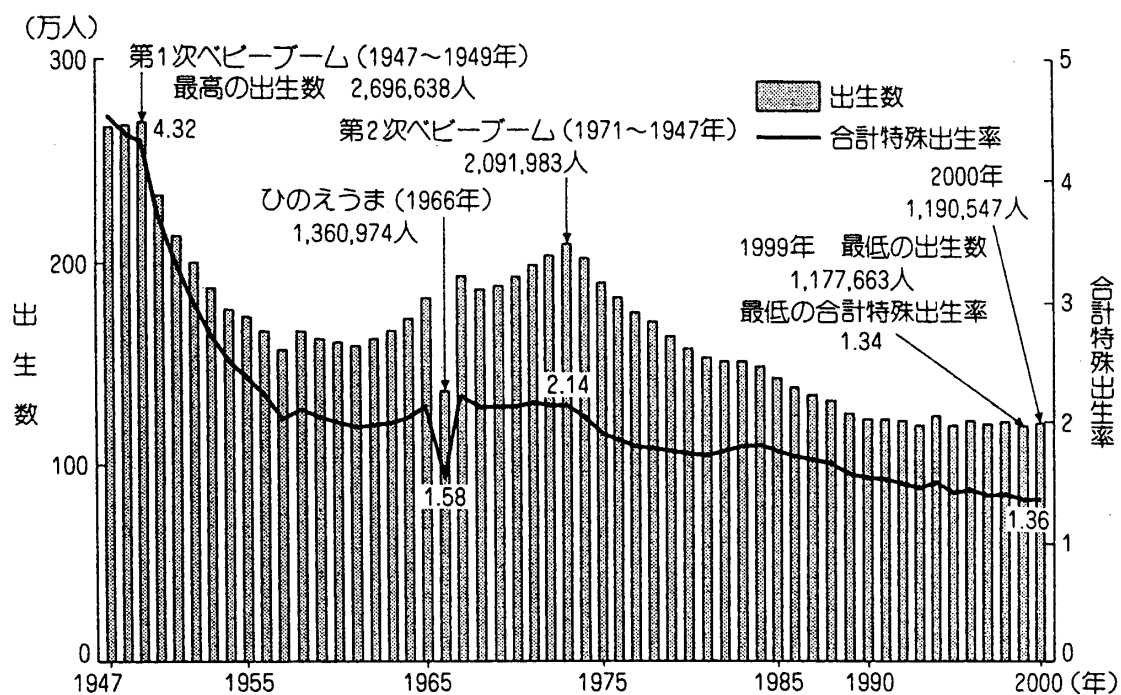


図2-4 出生数および合計特殊出生率の年次推移

注：2000年は概数

資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

○少子化の要因とその背景

①有戦後1回目の出生率の低下（1950年代なかば～1970年代なかば）は農業等への従事世帯から都市で

の雇用者世帯へと移行する中で「少なく産んで大事に育てる」志向の夫婦が多くなった。

②1970年なかばからの出生率低下の要因は、晩婚化、非婚化の進行による未婚率の上昇があげられるが、仕事と子育ての両立の負担感や子育てそのものの負担感も増大している。

「子どもの養育に教育にお金がかかる」「出産・育児における肉体的、時間的、心理的負担感」といった子育てに対する負担感の増大。

③子育ての責任を、特に母親に負わせてきた社会システムのツケが、女性の「子どもを産まない」という選択になった。

史上最低の少子現象は、社会問題として子育て、子育てに様々な影響を及ぼしている。さまざまな関わりの中、乳幼児教育施設も多くなり、就園への希望が高まり、施設依存性の傾向が生じてきた畦で農良仕事を見ていた子や、母親の背中と共に家事に参加していた子は、保育所や幼稚園へと行くようになった。昔の如く、子どもの泣く声が待ち遠しいという時代から、子どもに泣かれるのは煩わしいという意識が母親の心に植えつけられてきつつある。

思いのままに、又、スピーディーに家事を応援してくれる文明機器に恵まれた生活の中で“子育て”だけは思いのままにならない。時間のゆとりができたのに子育てにかかわることが少ないという反比例の現象が、今家庭の中で渦巻いている。「子育ては、手間ひまかけて」が基本である。世の中が如何に進展しても、基本はゆるがしてはならない。価値観の多様化に伴う出生率の低下現象は、親子の断絶、教育ママの出現、過保護育児へと子育てに悪化の状況を示している。

3 幼児教育の今、昔

この様な社会、家庭の背景の中で、保育所や幼稚園ではどのような課題をもつか実践に結びつけるかを考察し、日々の保育実践のあり方を見定めていくべきであろう。

保育者は家庭教育をも含めた。24時間を視野に入れた幼児教育の必要性を見定め、実践力を見につけなければならないと思う。就園率100%の時代、まさに、保育者としての質の高さを要求される時代である。

4 保育者の資質を高めるために

幼児教育学科では、第一部は2カ年、第三部は3カ年で、保育士資格と幼稚園教諭二種の免許を取得するが、2カ年、3カ年という短い期間に資格を取得させなければならない。

幼児教育学科においては、本学の新たな基本精神であるエコ・リベラルアーツを基盤にして、自然・ひと・環境への豊かな感性を育み、保育の根底にある自然や社会の事象についての興味や関心および、それらに対する豊かな心情や思考力を培うことを目標とし、さらに、幼児の望ましい成長発達を促すために、より良い環境を与え一人ひとりが身の回りへの興味や関心を高めつつ「自ら学びとる力」、すなわち生きる力の基礎を培うことのできる保育者の育成を目指している。

イ 学科の取り組み（平成16年度幼児教育学科教育目標）

学科の教育目標・方針に対する取組目標	目標達成のための具体的方策
1 各教科の学習を通してそれぞれ具体的で体験的な指導を行い幼児教育への興味・関心を育む。	1 各教科の指導においては体験的（「読む」「書く」も含む）授業の開始・終了の挨拶励行などを通して、学生としてのマナーも学習させる。
2 緑豊かな本学のキャンパスを活用し、ネイチャー・ゲームの精神・手法に学ぶ学習を採り入れ、保育の基本を感じ取り、更に保育技術を習得する。	2 ネイチャー・ゲームのリーダーとして活躍できる資格の習得を奨励する。
3 音楽・造形・身体表現等の指導では、学生の実態に基づき、個人やグループ指導を徹底し一人ひとりに得意とする保育技術を身につけさせる。	3 AGHなどの時間を計画的に活用して、学生カードを用いるなど具体的で効果的な方法によって、一斉及び個人指導を充実させ、免許・資格の習得や就職などの指導を積極的に行う。
4 AGHを充実して実習のための特別指導を早くから進め、保育者としての資質を高める。	4 実習指導については、附属幼稚園や檀原保育園と連携しながら、入学時から2カ年（第3部は3カ年）の予定を明示し、実習依頼から書類提出等を含め、計画的にすすめる。
5 幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を全学生が取得できるよう指導する。	5 学生の履修状況（出席状況などを含む）の把握と同時に授業内容の精査と授業方法の工夫によって、私語・居眠りなどの絶無に努める
6 自己現実と職業についての認識ならびに意欲を高めると同時に、資格を生かした進路保障に努力する。	6 三者懇談や二者懇談を通して、アドバイザーによる個人指導の徹底を図る。
7 第3部については学業と勤労の両立ができるよう支援する。	7 就職指導の一環として卒業生の話を聴く機会を設ける。

乳児、幼児は白紙であるとも、すい取り紙であるとも言われる。乳幼児は感性が高く、また、鋭い視力、聴力をもっている。身のまわりの環境の影響を受け生きる力の源を吸収して育っていく、子育てのプロを養成する学科として、その責務の重さを感じている。

①保育の基本

1989（平成元）年に幼稚園教育要領が改訂され、幼児一人ひとりの遊びを中心とした生活を大切にするという保育の基本が明確に示され、保育実践の改善もされてきた。十年後、幼児や保護者をめぐる社会状況の変化（少子化）により育児不安が増大した。1998（平成10）年に幼稚園教育要領が、1999（平成11）年に保育所保育指針が改訂された。遊びを中心とした総合的な指導の理念の実践者としての役割をどう果たすか、そして仕事と育児の両立に悩む親や子育て不安に悩む親の支援を保育内容として含んだことである。過去の保育指導型の保育から「環境を通して行う教育」を保育の基本とする考えを中心にすえられた。

②幼児にとっての環境とは

保育所や幼稚園の生活を通して乳幼児が発達をしていく姿をとらえ、発達を助長するような保育環境を構成することにより発達を促していこうという視点がとられた。幼児にとっての環境とは、幼児の身のまわりの全てのものをさすが、幼児が自分からかかわって自分の行動の結果から学びとれる範囲はほんの身のまわりの「環境」に過ぎない、しかし幼児にとってはこの狭い範囲の環境こそが重要な体験の

場、学びの源である。幼児の手の届くところにある環境は物であったり人であったりするが、本論の中では、幼児を育ててくれる人、保育者に限定して考えていくことにした。

③幼児にとっての第1の環境としての保育者

幼児教育学科では幼稚園教育要領や保育所保育指針に基づき、幼児の望ましい成長発達を促すために、より良い環境を整備し幼児一人ひとりが身のまわりへの興味や関心を高めつつ「自ら学びとる力」の基礎を培うことのできる保育者の育成を目指している。

5 保育者育成の課題

目指す保育者としての望ましい資質を向上させるために必要な科目の履修はさることながら生活態度や価値観の違いなど若い世代の学生について指導上さまざまな課題がある。

イ 学生の生活背景（から時代の進展の中で得たものと失ったもの）

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| イ) 個性が豊か | イ) 自然体験（直接体験）の稀少化や自然への敬愛心の欠乏 |
| ロ) 表現力が豊か | ロ) 利便性の依存による創造性の欠如 |
| ハ) 開放的 | ハ) 過程軽視で結果尊重の傾向 |
| ニ) 合理的 | ニ) 思考力、判断力の欠如 |
| ホ) 情報の収集および活用能力 | ホ) 耐性の欠如、自己中心的 |
| | ヘ) 人との対応の不足、組織の所属意識の希薄 |
| | ト) 心身の発達のアンバランス |
| | チ) 倫理観・価値観の変容 |
| | リ) 主体性の欠如、指示待ち |
| | ヌ) 家庭生活の変化（家庭内孤立） |
| | ル) 人生のドラマとの出会い不足（生と死の尊厳） |
| | ヲ) 権利主張と義務遂行の軽重 |

産業の発達は大衆の生活を豊かにし、様々な文化・文明を生み出し、その中で育った学生は、豊かさに順応し、それらを享受してきた。学生は個性豊かで一人ひとりのよさを発揮し、表現力も豊かである。物おじもなく開放的で多種多様な情報への対応力を持ち、その活用力も優れている。しかしその反面、失なわれたものも多く、列記すれば、イ～ヲまで、ずい分多くあげられるが、それらが学生の生活や態度に表れている。勿論単に学生だけとは言い難く近代の生活のあり様である。中でも直接的な自然体験の不足や、自然や人間の力を越えたものへの畏敬の念の喪失、人との対応力の不足、心身の発達のアンバランス、組織への帰属意識の希薄化、家庭生活における家族の孤立化、人生のドラマとの出会い不足による生命尊重の意識の軽さ、などがあげられる。失ったものに目をつけ、人生の先輩は「この頃の若い者は」と評するが、そういう時代を創り出したのは、実は我々にあるのではないか、そこで指導に当たってはこれらの両面に配慮しなければならない。保育者育成に当たっては、失ったものに目をつけ、是非回復しておかなければならない、学習の中でその事を気付かせ、学生自身に回復を図る努力を促し、学生一人ひとりの自己の体質改善に結びつけるようにしたい。

保育者は乳幼児が出生後、始めて出会う集団の中での“母”である。母に代わることができるのは、学生が持っている“よさ”の伸長と失われたものの回復であろう。更に、「家庭」とは、「家族」とは等を学ぶことによって、家庭教育援助、家族援助の力をも資質の中に位置づけられる。更に一人住まいの学生の現状を考え学生一人ひとりへの実態に応じた指導も生じている。

ロ 「環境」と学生

人は皆、生活する環境に順応して生きている。いわんや学生においても上述で失ったものを列挙したが、それらは何に起因しているか、帰宅後のあそびや家庭生活への参加（お手伝い）から探ってみた。

1 遊びについて

遊びについて

家庭生活の参加（お手伝い）についてのアンケート

幼稚園児 5 歳児

小学生 5 年生

中学生 2 年生の各年齢について現状をみた。

イ 遊び場について

休日や帰宅後、主にどこで遊んでおられますか○印をして下さい。

（ 家の中 庭 広場 公園 野原 ）

ロ どんな遊びをしておられますか

家の中で （ テレビゲーム その他のゲーム テレビをみる 本読み ままごと
おもちゃで遊ぶ 図画・工作 その他 ）

戸外で （ 遊ぶ 遊ばない ）

遊ぶと答えた人はどんな遊びをしていますか

（ ）

遊ばないと答えた人は何故ですか

（その理由は ）

ハ 遊び友達について

近所に友達がありますか （ いる （ 人 ） いない ）

友達と遊びますか （ 遊ぶ 遊ばない 遊べない ）

遊ばない （その理由 ）

遊べない （その理由
）

2 お手伝いについて

イ お手伝いをさせる （ させる させない ）

ロ させない理由 （ ）

ハ お子さんはお手伝いが （ 好き 嫌い ）

ニ どんなお手伝いをしていますか、しているものに○印をして下さい。

項 目		項 目	
花の水やり		食事の片付け	
家畜の世話		洗濯物をする(干す たたむ)	
飼育動物(小動物)の世話		靴を洗う	
新聞をとりに行く		掃除をする(ほうき ぞうきん)	
郵便物をとりに行く		風呂を洗う	
回覧板を持って行く		その他 ありましたら下欄にご記入下さい	
炊事の手伝いをする			
(お米を洗う・野菜を切る)			
配膳を手伝う			

3 アンケートより

1) 遊び場について(数字は順位を示す)

幼稚園児(5歳児) 1 公園 2 家の中 3 家の庭の順で広場や野原で野遊びは少ない
小学生(5年生) 1 家の中 2 広場 3 家の庭
中学生(2年生) 1 家の中 2 公園 3 広場

2) どんな遊びをしているか

・家の中で

幼稚園児 1 おもちゃ 2 図画 3 テレビをみる
小学生 1 おもちゃ 2 図工 3 テレビをみる
中学生 1 テレビゲーム 2 図工 3 テレビをみる

・戸外で遊ぶ

遊ぶ	幼稚園児	53%	遊ばない	幼稚園児	47%
	小学生	80%		小学生	20%
	中学生	83%		中学生	17%

3) 遊び友達について

・友達がいる	幼稚園児	85%	友達がない	幼稚園児	14%
	小学生	80%		小学生	20%
	中学生	74%		中学生	26%

・遊ぶ友達は何人ですか(幼稚園児108名 小学生52名 中学生70名)

対象者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
幼稚園児	2	3	23	7	19	17	1	2		5
小学生	38	12	15	9	19	2	2		5	15
中学生	11	10	14	10	1	10	3	1.5		9

・戸外での遊びについて

幼稚園児	1 自転車	2 虫取り	3 ブランコ・鉄棒
小学生	1 ボールあそび	2 おにごっこ	3 野球
中学生	1 ゲーム	2 野球	3 サッカー

・遊ばない理由

項 目	幼稚園	小学生	中学生
公園が無い	2.2	2.0	2.9
弟が小さいため	2.2		
車通りが多いため	6.7		
友達が近くにいない	2.2		
遊ぶ場所がない	2.2		
園で疲れて遊べない	2.2		
あついから		2.0	1.4
いろいろ忙しいため		2.0	
兄弟でゲームをする		2.0	
外で遊ぶ時間がない		2.0	5.7
時間を守らないため		2.0	
習い事のため		5.8	
部屋遊びが好き			
部活で暇がない			1.4
年齢的にそんな年ではない			1.4
外に出るのがめんどろ			1.4
めんどくさい			1.4

まとめ

- ・遊び場では家の中が多い。次に公園で安全圏での遊びが中心になっている。
- ・遊びについては幼稚園、小学校ではおもちゃ、中学校はテレビゲームが多くなっている。
- ・遊び友達は予想外にいることがわかった。
- ・戸外での遊びは、幼稚園では自転車が多い。幼稚園で始めて買ってもらい練習も兼ねて乗る。小学生ではボール遊び、おにごっこなど人とかかわって遊ぶ姿が見られる。中学生ではゲーム、野球、サッカー等ルールのある遊びを好んでする。
- ・遊ばない理由では、幼稚園児は車が多いから、小学生では習い事のため、中学生では外で遊ぶ暇がない。

調査は大和高田市を生活圏にしている幼児、児童生徒を対象に実施したが地域によっては遊びの様子も生活の仕方も異なると思う。

②お手伝いについて

	させる	させない	好き	嫌い
幼稚園児	94%	5%	95%	5%
小学生	94%	6%	50%	50%
中学生	83%	17%	27%	70%

お手伝いを「させる」率が高いのには意外であった幼稚園児、小学生ではお手伝いを殆ど「好き」であるが、年齢を追うにつれ「嫌い」になってくる。中学生になると「嫌い」の率が高い。

嫌いの理由

めんどくさい 50% 料理が苦手だから 15% 苦手だから 22%
 洗剤で手があるから 2% あれこれ命令されるから 10% 自分から進んでしない

どんなお手伝いか	幼稚園		小学生		中学生	
	順位	%	順位	%	順位	%
花の水やり	3	54	8	15	10	25
家畜の世話	15	2	9	4	12	14
飼育動物の世話	8	26	7	25	8	31
新聞を取りに行く	4	40	4	35	5	47
郵便物を取りに行く	7	30	3	38	7	37
回覧板を持っていく	9	23	3	38	8	31
家事の手伝いをする	6	32	6	29	6	44
お米を洗う・野菜をきる	13	12	7	25	3	57
配膳を手伝う	1	72	1	63	2	64
食事の片付け	2	58	2	52	1	67
洗濯物（干す・たたむ）	5	38	5	31	4	50
靴を洗う	11	19	3	38	11	18
掃除をする	10	21	6	29	9	30
風呂をあらう	12	15	4	35	2	64
その他	14	6	5	31	10	25

幼児は本来、自然の中で思いきり身体を使って遊ぶことが大好きである。しかし開発が進み野原や広場が狭められあそび場に制約がでて来た。また、車の増加によって移動が難しい、従って遊び場が外から家の中へと移った。また、少子化による遊び友達が減少し、群れで遊ぶことも困難になってきた。

幼児期に大切にしたいこと

○手足を十分使って遊ぶこと・・・直接体験

・五感を働かせ感覚によって体験すること

テレビや絵本への依存は、現実と虚構の境目が理解できない。

- ・夢中になって泥んこ遊びをする。
- ・自然の中で、風、気温、湿度の変化を直に感じる。

機械任せ、情報任せでは自分の身体や感覚を頼りにしなくなる。

- ・動植物に親しむー草花や野菜を育てる。生き物に餌をやるなどして、自分の行動をコントロールしたり、生命の尊さを感じとる。

- ・身近かなことに発見がある。

失ったものを追いつけるのではなく、身近かなことに目をつける。キャッチボール、日曜大工

町外れの夜道を歩く、丘の小川を見る、道端の草花を見る、雨の日のお出かけなど

家庭や地域で経験しにくいことを、保育者や幼稚園での環境構成のポイントに、また園生活のあり方も考え、実践していくことが、これからの乳幼児教育の課題であると思う。遊びも手伝いも本来、幼児にとって大好きである。その心を大切に幼児期に体験でもって習慣化させてあげることが、子育てに当たる者の勤めでもある。

どんな遊びをしているか	幼稚園児Ⅰ	幼稚園児Ⅱ	小学5年生	中学2年生
おにごっこ	1	5	10	3
缶けり	1		1	
バドミントン	1	1		
自転車	30	38	2	
砂場	4	17		
虫取り	9	8		
鬼ごっこ	2	8		1
公園（ブランコ・鉄棒）	6	23	6	
サッカー	1	4	1	4
縄跳び	3	5		
スクーター	2			
ボールあそび	6	9	11	2
魚取り（魚釣り）	1			3
野球	2		6	7
ローラーボード	1			1
水遊び（プール）	2	2		11
かけっこ	2			
泥団子作り		8		
バドミントン		1	3	3
ドッチボール			4	2
キャッチボール			4	3
一輪車		2	3	
探検			2	1
ゲーム			2	5
その他	5	3	7	10
遊ばない理由	幼稚園児Ⅰ	幼稚園児Ⅱ	小学5年生	中学2年生
公園が無く	1		1	2
弟が小さいため	1			
車通りが多いため	3			
友達が近くにいない	1			
遊ぶ場所がない	1			
園で疲れてあそばない	1			
あついから			1	1
いろいろ忙しいため			1	
兄弟でゲームをする			1	
外で遊ぶ時間がない			1	4
時間を守らないため			1	
習い事のため			3	
部屋遊びが好き			1	
部活で暇がない				1
年齢的にそんな年ではない				1
外にでるのがめんどろ				1
めんどくさい				1

自然とのふれ合いについて

項 目	%	項 目	%
野原であそぶ	84	砂浜であそぶ	84
草花を摘む	94	潮干狩りをする	62
草花でものをつくる	80	海で溺れそうになる	36
鉢植えをする	80	霜柱を踏んだこと	60
花壇づくりをする	70	夕焼けを見る	94
草ひきをする	84	虫の音をきく	90
樹や枝を切る	52	風の音をきく	84
木登りをする	52	小鳥の声をきく	90
木の実をとる	88	滝を見る	70
木の実を集める	80	雨垂れの音をきく	66
木の枝や葉であそぶ	76	よもぎ摘みをする	78
木の実であそぶ	76	いも掘りをする	90
木の実を食べる	68	落花生をとる	30
石であそぶ	86	包丁を使う	84
砂であそぶ	90	かんなを使う	34
泥であそぶ	90	金槌を使う	62
田んぼであそぶ	56	木工をする	62
畑仕事をする	50	電池の取り替えをする	80
虫捕りをする	76	電球の取り替えをする	54
虫を飼う	66	たき火をする	42
虫とあそぶ	64	マッチをする	70
金魚を飼う	76	ライターを使う	64
ヘビをさわる	16	茶碗を割る	72
ミミズをさわる	68	骨折をした	16
かめを飼う	52	目にゴミが入った	88
ハムスターを飼う	38	植物でかぶれる	42
クワガタムシを飼う	54	草で手を切る	76
メダカを飼う	32	とげが刺さった	90
日の出を見る	60	虫にさされた	92
夕日を見る	88	花火をする	92
夕立にあう	86	鉛筆をけずる	90
雨にぬれる	94	赤ちゃんの誕生に出会う	32
雪であそぶ	92	家族の死に出会う	56
あられを見る	72	星(星座)をみる	90
雷をみる	84	薪を割る	4
川あそびをする	92		
川の生き物を捕る	70		

生活について

日常生活への参加、体験は保育者として、保育をする上で大切な内容である。実習の事前指導にも必要であるが、学内では体験できないものは、保護者の協力を得ている。

自然体験について

間接体験が多い中で状況を把握した。アンケートに答えつつ、学生らはその必要性を感じとった。

「A G H 計画」(平成16年度前期1回生A・B組)

学生が2カ年で保育士資格と幼稚園教諭免許を習得するが、授業だけでは不十分な内容を補うため、入学当初から「AGH」を設け、目指す保育者としての資質を向上させるために必要な学習内容を計画して実施している。

幼児教育学科 I 回生 A・B 組

平成16年度前期 A G H 計画

「AGH」は、幼児教育学科で学ぶ皆さんが、授業だけでは不十分なところを補うために設けられた時間です。皆さんの目指す保育者としての資質を向上させるために設けられたもので、実習及び就職にとって、極めて大切な時間です。欠席の多い人は実習の評価や就職に明らかに不利となります。この時間の主旨をよく理解して積極的な態度で臨んでください。

- 毎週水曜日の3時間目に実施。
- 場所は原則として1303教室です。
- 毎週レポートの提出をします。

回	月/日	内 容
1	4/14	・個人面談（出席番号1～30番）
2	4/21	・学外オリエンテーションについて ・個人面談（出席番号31～44番）
3	4/28	・2年間の実習計画について ・その他の幼児教育学科の行事について
4	5/12	・就職試験まで1年あまり（就職ガイダンス）
5	5/19	・幼稚園免許と保育資格の取得のための学習について
6	5/26	・本や新聞を読んで考えよう
7	6/2	・大人の作法（電話と手紙）
8	6/9	・乳幼児の成長発達を考える -ビデオ視聴を通して-
9	6/16	・去年の就職活動を省みて
10	6/23	・実習の様子を理解する -ビデオ「保護者へのあゆみ」をみて-
11	6/30	・施設実習について
12	7/7	・夏休みの活用について
13	9/1	・前期試験について
14	9/8	・予備日

6 実践例

授業 保育内容「環境」第5章 植物にふれてあそぶ

5月24日

1 幼12

- 活動 ①学内にあるさまざまな樹木や草花に興味や関心を持つ。
- ②樹木にふれたり、草花を摘んで遊ぶ中で花や葉の香りや色、形の違いに気づきいろいろな樹や草花を知り飾ったり、作ったりして親しみを感じとる。
- ③形や色の異なる葉を5種類以上見つけ、友達と合わせ、その多さに関心をもつ
- ④体験をとおして、身近な自然環境への関わりを持つ事への楽しさを味わう。

反応

学外オリエンテーションでのネイチャーゲームの体験が生かされ学外での活動に興味を示し、積極的に学内の樹木や草花にかかわっていた。この体験をもとに学内や学外で樹木や草花に出会った時は、ちよと立ち止まって、触れてみたり、じっくりと眺めたり等のきっかけになればと思う。失った自然環境を追うのではなく身近な環境に関わり、やがて人（自分）も環境の一構成員として生活していることに気づき、よりよい環境づくりの出来る人になってほしい。筆者の勉強不足から学生に十分指導が出来なかったがネイチャーゲームの資格を生かし実際の中で人（学生）と一緒に育ち合いと願っている。

おわりに

少子化時代を生き抜く保育者に今、求められていることは、多様な機能を習得する実力と、乳幼児としての望ましい成長が促せる保育力、そして乳幼児保育の基本をふまえた保育力が求められる。

2カ年、3カ年の養成期間において諸々の課題はあるが、学生一人ひとりには潜在的に可能性を秘めていると信じた。テーマを大きく挙げながら、まだ研究の緒についたばかりである。更に追求を深めて、今求められる保育者としての資質を身につけ巣立ってほしいの一念である。更に充実した指導に向けて努力したいと思っている。

参考文献

相愛霊峰十山懸文治編「家族援助」ミネルヴァ書房

柴崎正行十田中泰行編「保育内容『環境』」

奥井智幸編著「子どもと環境」理論編

保育章保育指針 フレーベル館

幼稚園教育要領 ヘレーベル館